

綾瀬川流域総ぐるみ生活排水改善意識改革

事業概要

2007、3、19

NPO 法人，東京湾と荒川・利根川・多摩川を結ぶ水フォーラム

1. 事業の提案

27 年前から、建設省は全国の水系、湖沼の水質調査を統一基準で測定し、発表してきた。このうち 16 回は、綾瀬川がワーストワンを記録した。県は、この現実から本格的に脱却すべく「とことん大作戦」を推進した。これに連動する形で、NPO 法人「水フォーラム」は、県（水環境課、河川課、教育委員会）と協働事業を推進した。

2. 提案事業の企画

事前に事業を検討する時間はなく、基本的には、水環境課が策定した企画をそのまま受ける形で展開した。本来ならば 1 月～3 月の段階でしっかりした事業の企画をする時間を与えられる必要がある。

3. 事業の 1. 意識改革推進事業・ほたるの星上映会、市民のつどい

映画「ほたるの星」を前面にした市民のつどいは、4ヶ所で開催。市民 1500 人が参加した。県と市と市民が連携し、協働の輪を広げることに成功した。ポスター、チラシは 10 万以上、県・市の広報、マスコミも後押しした運動となった。

事業の 2. 小学校の授業への取りくみ

小学校の総合学習の時間に取りくんでもらう事業は、36 校で 81 時間、3977 人の児童に実施できた。各市と教育委員会の協力と、担当した市民団体の熱意によるものだ。児童は親に伝え、親は知人に広がって、大きな成果を納めた。

4. 事業を推進するに当って次のテーマが指摘される

- 綾瀬川がなぜ日本一汚いか、ワーストワンの原因は何か、市民の質問に行政は答えられない。この点を明らかにしなければ市民は本気で立ち上らない。
- 一年間の事業推進のあと、二年目以後の市民活動を展開する基礎を構築できるか。
- ルネッサンスⅡ、とことん推進事業と各市（地域）で展開する市民運動をどう結びつけるか、さらには、江戸川河川事務所・荒川下流河川事務所、東京都、埼玉県と各市の対応がコントロールされずバラバラに施工している現状をどう結び合わせるか。

以上の点は、行政の根幹であるが、早急に見なおさなければならない。

5. 支川対策、公共下水事業、浄化槽対策

荒川の導水事業が完成したが、支川の改修ができないため、効果が小さくなっている。伝右川・毛長川・辰井川・圀川・新川の改修が急務である。公共下水事業のおくれ、浄化槽（単独）が多いことにかんがみ、特別の対策が必要である。

6. この一年の運動は、連携・協働の確かな道筋をつけた。市民の中にしっかりした地歩を築いた市民団体は、綾瀬川をワーストから脱却させ、後戻りしない足がかりをつかんだ。この実績は、全県へ向けて大きな勇気あるアピールとなる。